

チャリティーゴルフコンペ



一般社団法人九州動物福祉協会
理事長 葉真寺 偉臣

令和最初のチャリティーコンペを令和元年11月28日に伊都ゴルフ倶楽部にて開催いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

この日は朝から小雨模様でしたが、スタート時には天候も持ち直し31組117名の参加者は無事にホールアウトすることができました。

ホールアウト後には、日頃から当協会の活動にご賛同頂いているスリーズ会の皆様から当協会に対してご寄付の贈呈式が行われ、新たに就任した小塩スリーズ会会長より蔵内理事に目録が渡されました。

チャリティーにご賛同頂いた参加者をはじめ、協賛頂いた企業の皆様への感謝とともに、これからも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



このえ 九重の風



No. 5

一般社団法人九州動物福祉協会
福岡県福岡市中央区渡辺通 5-2-25 7F

栗原福岡県議会議長からメッセージが届きました



福岡県議会議長
栗原 渉

早いもので、わが国初の常設ペットシェルターである九州災害時動物救援センターが、平成28年6月に熊本地震による被災犬・猫の受入れを開始されてから4度目の春を迎えました。同年4月の地震発災を受けて、急遽、予定日を前倒し、一部施設を「熊本地震ペット救援センター」とされての開所であり、最終的に、熊本地震関係で、犬50頭、猫20匹もの受け入れ保護がされたと同っています。

また、平成29年7月に私の地元、朝倉市周辺を襲った集中豪雨災害では、家族ともいえるペットを抱き、避難所に身を寄せた方々がありました。その対応では、直ちに立ち上げられた「福岡県災害時ペット救護本部」に同センターも参加され、多くの被災動物を受け入れていただきましたことも記憶に新しいところです。

さらに翌年7月、再び朝倉地方を含む西日本全域で甚大な被害を出す豪雨災害が発生した際にも、センターには万全の受入準備と一部被災動物の緊急保護をしていただき、大変、安心をいたしました。改めて感謝申し上げます。

被災された飼い主にとってペットは心の支えですが、何かと不

自由な避難所等で一緒に生活することは困難です。そのような中、愛するペットを信頼できる同センターに預かっていただき、安堵し、感謝する飼い主の声を、私は大変、数多く伺いました。センターを運営されておられます一般社団法人九州動物福祉協会の取組に心から敬意を表する次第です。

私は、お年寄りや障害を持たれている方に優しいまちづくり、地域の将来を担う次世代の育成を目指していますが、そのような人に優しく心に潤いのある社会は、動物にも優しい、共生社会づくりによって実現すると確信しています。

センターのフェイスブックで、広いセンターの芝生を元気に走り回る犬達や飼育ボランティアの方々とのふれあいの姿を見ることができるとは、私は、この楽しい写真や動画を拝見するにつけ、センターが、人と動物の共生社会づくりのシンボルになりつつあると実感しているところです。

私が昨年5月に福岡県議会の議長を拝命いたしましてからも、台風19号による豪雨災害をはじめ、各地で災害は絶えません。九州災害時動物救援センターの役割は、今後、益々大きなものとなってまいります。私も、微力を尽くしてその運営、活動を支援してまいりますので、皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。同様の取組が全国に広がりますことを祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

九州災害時動物救援センター施設概要

管理棟（診療室、事務室、ミーティングルーム、宿泊所）
大犬舎×1棟、中犬舎×1棟、コテージ型犬猫舎×14棟、大型ドッグラン×3区画、中型ドッグラン×2区画



九州災害時動物救援センター

所在地：大分県玖珠郡九重町湯坪1625
TEL：0973-79-2741

寄付のご報告

①「九州災害時動物救援センター」への一般寄付

平成28年度	6,658,302
平成29年度	6,203,194
平成30年度	2,619,137
令和元年度	1,349,331
累計額	¥ 16,829,964

② 一般社団法人九州動物福祉協会 賛助会員

(R2,2月末現在)

	個人	法人	合計
会員数	28	102	130
入会口数	130	434	564
入金額	130,000	4,340,000	¥4,470,000

皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

九州動物福祉協会理事 麻生哲先生 旭日小綬章受章記念祝賀会

公益社団法人大分県獣医師会会長で当協会の理事を務めておられます麻生哲先生が、その長年の功績を認められ、2019年春の叙勲において旭日小綬章を受章されました。その受章を記念し、令和元年9月22日にレムブランドホテル大分(大分市)で盛大に祝賀会が催されました。



麻生先生は、20年の長きにわたり大分県獣医師会会長を務められ、日本獣医師会の理事も在任14年となります。畜産県大分において産業動物専門の獣医師として強いリーダーシップを発揮し、早くから薬剤耐性菌問題に取り組むなど、知見を活かした社会貢献に努められました。また、平成31年2月に開所した「おおい動物愛護センター」の設立に当初から関わりその実現に尽力されました。

祝賀会には麻生先生のご勲績を支えて来られた奥様をはじめご家族も参加され、和やかな雰囲気の中、歓談が進みました。

麻生先生の今後益々のご活躍をご祈念いたします。



岩屋代議士の祝辞



蔵内理事の祝辞

ワンヘルス連携シンポジウム

令和2年1月25日、福岡県主催のもと「ワンヘルス連携シンポジウム」が九州電力電気ビルみらいホールにて開催され、当協会から草場副理事長(福岡県獣医師会会長)と藏内理事(日本獣医師会会長)が来賓として出席し、それぞれ祝辞を送りました。

グローバル化がもたらすヒト・モノ・カネの地球規模の移動は、島国の日本でも例外なく、外来生物の侵入や感染症のリスクが高まることを意味します。インフルエンザはもちろん、近年でもSARS、MERSやジカ熱など新たな脅威となる人獣共通感染症が世界中で頻発しており、それによる被害と混乱の度合いは増大の一途を辿っています。折しも中国・武漢で発生が確認された新型コロナウイルス肺炎の急速な世界中への拡大がニュースを賑わせる毎日です。日本でも、1月14日に国内初の感染者が神奈川県で見つかり、その後、全国で感染者と犠牲者が増え続け、経済への打撃も深刻化しています。藏内理事も冒頭の挨拶で述べましたが、「今や人獣共通感染症の脅威はテロよりも深刻である。」との認識は世界の常識となりつつあります。

世界獣医師会と世界医師会は、そうした脅威に備えるための取り組みを「One Health(ワンヘルス)」と位置づけており、その第2回ワンヘルス国際会議が平成28年に北九州市で開催されました。その会議において、ワンヘルスの概念を認識から行動・実践の段階に進める「福岡宣言」が世界に発信されたことは、その後に福岡県がワンヘルス推進協議会を立ち上げ、全国に先駆けてワンヘルスの推進を行うきっかけとなりました。

今回のシンポジウムは、そうした取り組みを広く県民に理解していただく目的から、基調講演は国立環境研究所の五箇公一氏、トークショーにはお笑い芸人のアンタッチャブル柴田英嗣氏というTVでもお馴染みの方を招

き、多くの参加者が集まりました。

五箇氏による基調講演は「地球環境変動がもたらす生物学的リスク」という難しいテーマでしたが、軽妙な話術に加えレギュラー出演するバラエティ番組の裏話も交えるなど、一般の参加者が置き去りにされないよう随所に工夫されていました。

講演のなかで五箇氏が特に強く提言されていたのは、本来は人間と接することのない環境において宿主(動物や虫)の中で静かに暮らしていたウイルスや細菌が、開発などの環境破壊によって宿主を失い、新たな宿主を求めて人間に感染する流れは当たり前だということでした。またグローバル化でヒトやモノが移動することで、ウイルスや細菌の感染を招き、また増殖・累代の過程でその遺伝子に変異し、より感染力は強くなる。しかもその進化のスピードは人間が対応できるものではない。何百年にもわたるインフルエンザウイルスとの戦いに人間が勝てないことはそれを証明している。だからこそ人類は環境を保全し、ウイルスや細菌が元来の宿主の中で静かに暮らしてもらうことが望ましい。と結論付けられました。まさにこれはワンヘルスの概念であり、地球上の生命が互いの領域を侵すことなく関係することで調和が保たれ、持続可能な地球環境が実現するという認識が非常に重要なのです。

また、五箇氏は自身が描いたダニのCGアートを出会った人にプレゼントすることでも知られており、多くの有名人との2ショット写真も紹介されました。

ワンヘルスの概念は一般にはまだまだ馴染みがありませんが、長時間の講演にも関わらず、幅広い年齢層の参加者が終了まで五箇氏の話に聞き入っていました。このような機会が増えることでより多くの方にワンヘルスが理解され、その取り組みが広がることを願います。

【福岡宣言とは】

平成28年11月に北九州市で開催された「第2回世界獣医師会—世界医師会「One Health」に関する国際会議」において、人の健康、動物の健康、そしてそれを支える環境の保全には医師と獣医師の連携・協力が不可欠であることを認識し、その実現に向けた行動・実践の段階に進むとする「福岡宣言」が承認されました。

【One Health(ワンヘルス)とは】

人の健康、動物の健康、環境の保全のためには、三者の全てを欠かすことができないという認識に立ち、それぞれの関係者が「One for All, All for One」の考え方に基づいて緊密な協力関係を構築し、活動していこうとする理念のこと。



講演後の五箇氏と藏内理事



五箇氏の基調講演



小川知事の主催者挨拶



藏内理事が日本獣医師会会長として祝辞



草場副会長が福岡県獣医師会会長として祝辞

災害時ペット救護人材育成セミナー (第四回)

平成29年から4回目となる災害時ペット救護人材育成セミナーを平成31年10月24日、25日の二日間で開催し約30名の受講者が参加しました。

初日(令和元年10月24日)は吉塚合同庁舎にて座学を行いました。講師には前回同様、東京都獣医師会の平井先生と仙台市動物管理センターの亀田先生を迎え、災害対応や公衆衛生、また自治体による組織的支援活動の事例などを学び、避難所の運営を想定したワークショップでは受講者がそれぞれのアイデアを持ち寄り活発な議論が展開されました。

2日目(同月25日)は九州災害時動物救援センターでの実地演習を行いました。船津副センター長の指導のもと、実際の現場で起こりうる事象などを想定したシミュレーション訓練を中心に学んで頂き、受講者からも高い評価を頂きました。

これまで当協会主催のもと、九州各地の自治体職員や動物愛護推進員を中心に参加者を募り、災害時の動物救護活動に関する知識や技術を広めることを目的として開催し、一定の成果を上げてまいりました。今後はその実績もふまえ、福岡県などとも連携し、さらなる災害時の人材ネットワークの構築に取り組んでまいります。

